

富山大学杉谷（医薬系）キャンパス研究活動一覧（第 34 輯）の発刊にあたり

富山大学杉谷（医薬学系）キャンパス研究活動一覧 34 輯を発刊できることを嬉しく思います。本誌は富山大学医薬学図書館運営委員会の中の研究活動一覧編集委員会の委員の先生方のご尽力により、杉谷キャンパスに所属している一般教育、医学部、薬学部、和漢医薬学総合研究所、附属病院、共同施設の諸先生方、大学院生、研究生等の平成 22 年の一年間の学術・研究活動をまとめたものです。

各研究室や部門の学術・研究業績を一冊の冊子にまとめることによって、情報の共有が等しく可能となり、共同研究などの学術・研究の交流が活発になることを期待して止みません。

今日、情報量が持つ意味合いは将来の人間の在り方に非常に影響してきそうです。アメリカのコンピュータが一般のクイズ番組で人間に勝ったというニュースがありました。コンピュータには約 100 万冊の本の情報が記憶され、ほぼ瞬時に答えを出せるシステムだということで注目されました。情報分野の進歩は速く、2050 年ごろには人間並みのコンピュータができそうだとされています。その時の研究社会がどうなっているのか予想もできませんが、そのコンピュータに入れる情報は、研究者がコツコツと研究を重ねた仕事の基本になることは不変のように思います。

教育も大きく変わってきそうです。情報端末の進歩によりペーパーレスの授業が展開され、学生は重たい本を掲げてこなくてもよい時代になってきそうです。そのような時代の教育に対して、学問の深遠さからの危惧を感じるのですが、若者の適応はすごいものがあり、果たして大学教育がついていけるか問われています。

図書館は、このような将来に対して方向性と役割を明確にしていく必要があります。人類の知恵をどのように蓄積・保存していくのか問われています。紙媒体を続けるのか、磁気媒体だけで記録していくのか、問われてくるでしょう。また磁気記憶媒体は 10 年、20 年毎に更新をしなければなりません。それを誰がどのようなシステムで行うのか、現在誰も考えていない気がします。図書館の重要性はずっと変わらないように思います。

諸先生方には、100 年、1000 年という知恵の伝承という長いスパンの役割を認識された上で、ご協力をお願い申し上げます。

終わりに第 34 輯の発刊にあたり、研究活動一覧編集委員会の先生方には暑く御礼申し上げます。この業績集が学問の発展に少しでも寄与されることを念じております。

富山大学医薬学図書館館長 福田 正 治
Fukuda Masaji